

## 体営業が奏功

荏原製作所のエネルギーカンパニーは、气体を扱うコンプレッサー・タービンとポンプの双方を取り扱うユニットな存在として、世界のエネルギー市場におけるプレゼンス向上に努めている。宮木貴延エネルギーカンパニー代表に聞いた。

▼事業環境をどうみますか。

◇

## エネルギーカンパニー プレジデント 宮木 貴延 氏に聞く



2024年12月期の売上収益は2104億円と前期比25.8%増加したが、足元では北米や中国で投資決定に遅れが生じており、本期の売上収益は2050億円を見込んでいます。ただ中長期的に市場が拡大傾向にあることに変わりはない。とくにLNGは人口増加やアジアの経済発展に加えて、脱炭素に向けたトラ

「製品別に構成している事業部を、顧客や市場を起点とした構成に変更したのが今中計の出発点

■今期を最終年度とする3カ年の中期経営計画の評価は。

ソシショーンエネルギーとして、また安全保障上の問題からも需要が急増しており、40年頃まで生産量は2倍近く増えていくだろう」

## 生産、サービスとも最適化

だつた。これにとどまらず、それまでは分かれていたカスタムポンプとコンプレッサー・タービンの営業、サービス機能を統合した。一体営業を展開したことで、サウジアラビア・ジュベイルの大型石油化学コンプレックス『AMIRAL』プロジェクトにおいて、コンプレッサー・タービン、カスタムポンプの一括受注を実現できたのは大きな成果といえる。有力顧客に対しては専門組織を設置し、将来の方向性をつかむための中長期的な関係構築にも努めており、さらなる成果へつなげていきたい

▼サービス体制強化の進捗は。

## 脱炭素・新エネ向け開発へ

タービンとカスタムポンプの営業、サービス機能の統合の一環として、インド・バンガロールはドネシアに両製品を対象としたサービス拠点を新設した。また中東ではサウジアラビアで23年にも稼働を開始したコンプレッサー・タービン向けのサービスショットに加え、年内にもアブダビに新拠点を開設する。米国ではヒューストンの旗艦拠点で拡充を進めている。一方でカナダのバーリントンとグアテマラの拠点を統廃合し、収益性を一層高めていく体制が整った

▼関税や地政学リスクの観点から、今後のグローバル事業体制をどう考えますか。

ア、日本・袖ヶ浦はコンプレッサー・タービン、エンド・バンガロールは脱炭素や新エネルギーに向けて、ポンプとコンプレッサー、それぞれ単品ではなし得なかつた性能を実現する製品の開発を進めている。一酸化炭素(CO<sub>2</sub>)分離回収・貯留(CCS)向けポンプとコンプレッサーのパッケージシステムをはじめ、水素向けコンプレッサー、アンモニア向けポンプ、さらに未来に向けた

に一段と最適な体制を整えていきたい」

アフリカも視野に入れ、生産、サービスとともに旺盛だ

(聞き手=石井惇子)